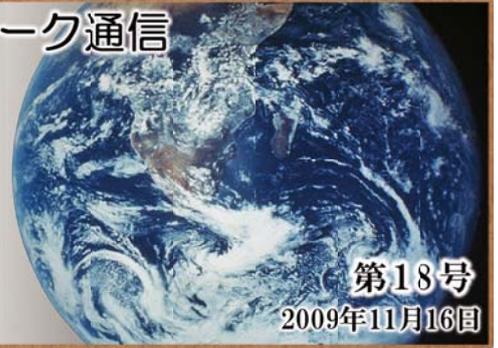


# ういねっと

Wakayama environmentalists NET work

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター



第18号  
2009年11月16日

## いよいよ来月7日からCOP15@コペンハーゲン

COP15 ネット関西～代表団（団長：重栖隆氏）壮行会とシンポ開催



11月14日、大阪梅田ビジネスセンターにて「温暖化防止COP15ネットワーク関西」と「地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）」の共催による、コペンハーゲンへの代表団壮行会とシンポ「COP15で何が話し合われるのか？」が開催された。

シンポでは、龍谷大学の高村ゆかり教授が、私たちが直面する課題、コペンハーゲン会議の位置、コペンハーゲンに向けた交渉の現状、COP15会議の争点と課題などについて基調講演をおこなった。そのなかで、高村氏は「コペンハーゲンでの交渉は京都議定書交渉よりも難しい交渉である。具体的な次期枠組の目標に至らず、『政治的合意』にとどまるかもしれない」としながらも、「米国議会での法案審議の進展が交渉を左右するだろうが、米国オバマ政権は交渉への積極的参加、コペンハー



さらに本番の会期が尽きてすら何も決まらず、危うく空中分解しそうなところ、会期を一日延長し辛うじて

12月7日からデンマークのコペンハーゲンで開かれるCOP15（国連気候変動枠組条約第15回締約国会議）に向け、07年末にインドネシアのバリで開かれたCOP13（バリ）から2年にわたり2ヶ月に一度のペースで積み重ねてきた各国政府事務レベルによる準備協議が、今月上旬にバルセロナで開かれた作業部会で終わった。COP15の使命は京都議定書第一約束期間（08～12年）後の温室効果ガス削減について世界の合意を得ることにあるが、先進国と途上国の主張の溝はバルセロナでも埋められなかった。これを受けて、同条約事務局長やCOP15のホスト役であるデンマーク首相が法的強制力を伴う合意を断念との報も伝えられ、コペンハーゲンの焦点は強制力のない政治宣言の中心に移ったかのような報道がなされている。

その京都で、分裂寸前の会議を救ったのは世界の世論だった。筆者は、97年12月7日のその日、雨上がりの平安神宮に世界のNGOや日本の市民2万人が集まり、「京都で決めよう」と叫んだあの熱気を、昨日のこのように鮮やかに思い出す。京都国際会議場を背向け合っていた交渉当事者たちを合意の場へと呼び戻したのは、間違いなくこの集会の熱気に象徴される国際世論から、「交渉の破壊者」「人類の未来を売り渡した国」と指弾される事への恐怖だった。かくして最終日、ホットライヴが各国首脳を結んで頻繁に飛び交い、最後には政治の意志が京都議定書を生んだのだ。

確かに合意への道は険しい。だが、世界中のほとんど全ての国が人類の救済に繋がる意味ある合意を望んでいることも事実なのだ。COP15が通常の閣僚級会合から首脳級会合に格上げされる可能性も高いという。コペンハーゲン合意への期待値を引き下げる必要はどこにもない。我々、国益の主張から自由な市民に求められることは、交渉経過をめぐる雑多な報道や各国政府が打ち上げる観測気球に一喜一憂することなく、あくまで人類の未来に責任を負うに足る高い合意目標を堅持して主張し、世論を盛り上げてゆくことだ。

さあ、コペンハーゲンで決めよう！

ゲン合意をめざすことを表明している。また、日本の新政権のリーダーシップ表明も京都議定書のときにはなかった新しい世界の状況である」とのべ、交渉の行方は予断を許さないと結んだ。

米国の環境法律家団体「アースジャスティス」のアリス・トーマス弁護士が、米国議会における温暖化対策法案の審議状況や国内の対策の現状などについて緊急報告したのち、COP15に参加するCASA国際交渉担当の大久保ゆかりさんが、NGOの視点からコペンハーゲンに向けた日本の課題を報告した。大久保さんは「削減」「適応」「資金」の3つのキーワードを示し、日本がなすべきことは、「IPCCが示した『最低限』の『25%目標』ではなく40%削減を検討すること」、「被害国の適応策と影響による損失を補償する国際制度制定へ努力し、適応資金を拠出すること」、「途上国支援の資金規模を明確にすること」などであると提起。また、日

本政府の対処方針については、環境省地球環境局地球温暖化対策課長の高橋康夫氏から報告があった。

つづくパネルディスカッションでは、CASAの早川氏のコーディネートで、高橋氏・大久保さん・重栖氏がそれぞれの立場からコペンハーゲン会議への課題と抱負を語った。その中で、重栖氏は、直前のバルセロナAWG会議での日本政府の対応について、「鳩山首相の『政治の意思』が政府の中にどう浸透しているのか疑問だ」「現世の利益だけでなく人類益を優先した交渉をして欲しい」と語った。

壮行会では、41名の代表団を代表し、団長の重栖氏が「COP15会議は、迅速で大規模な温室効果ガスの排出削減が必要であり、低炭素社会への転換にむけた明確な動きが求められているもとの交渉であり、我々が会議に直接出るわけではないが、市民の目線で大きなプレッシャーをかけたい」と決意表明した。

## 有田JC主催イベント 「輝け有田!!」に「和っ人君」で啓発活動

9月21日(祝)有田市のふるさとの川総合公園で(社)有田青年会議所主催の「輝け有田!!」人力・自然発電によるイルミネーションのイベントが開催されました。

事業特別委員会の委員長の挨拶に続き、NPO法人次世代エネルギー研究所の田縁代表が「次世代エネルギーとして自然エネルギーを考えたとき、和歌山県は太陽光発電でも風力発電でも非常に恵まれている」と条件の良さを訴えました。また有田郡・市の小学生約100人とその保護者等がそれぞれのブースで発電おもちゃ作りに挑戦、高専の学生が作ったロボットでの遊びや、竹とんぼ、

ら?」の啓発ビラを配ってブースで対応。男の子も女の子も実際に和っ人君によって発電を体験し、ランプがいくつか点灯するかに挑戦したり、

中には「お父さんも挑戦!」とがんばる人がいたり、「日頃何気なく使っているけど電気起こすのたいへんやな」との声も・・・。

最後は暗くなった会場のすぐ近くの有田中央大橋に事前に取り付けた大量のLEDのイルミネーションに点灯、その美しさに参加者より歓声が上がりエコについて学んだ有意義なイベントのクライマックスを飾りました。

報告 樫村 健



こま回しといったなつかしの遊びも体験しました。

「和っ人君」の生みの親の堀さん夫婦と紀中の県温暖化防止活動推進員2名は「どうす

## 紀州大地の会のEM自然農法米を味わってみて下さい!

WENET会員である紀州大地の会では、平成7年以来、15年間にわたって、EM自然農法米(化学肥料・農薬・除草剤不使用※有機JAS認定米)を作ってこられました。今年も、14軒の農家が、約10haの水田で、キヌヒカリ・コシヒカリ・ヒノヒカリの3品種を栽培し、約47tの収穫を上げたそうです。

その特徴は、使用する基本肥料が、同会オリジナルのEMボカシ堆肥であることと、食味テストの結果値がハイレベルだという点です。ちなみに「マルチ味度メーター」での今年の測定値は、キヌヒカリ(4検体)平均80.8、コシヒカリ(6検体)平均81.0(※事故米1検体を除く)、ヒノヒカリ(4検体)平均86.0だったとのこと。販売は、友人・知人のネットワークを中心に、約160世帯との産消提携による年間契約販売(販売単位は玄米30kg)プラス業務用販売だそうです。この時点での残存量はキヌヒカリ300kg。ご希望の方は下記までお問合せを・・・。

TEL/FAX: 073-423-5333 紀州大地の会事務局

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

## 「紀州村」

「紀州村」は、わかやま環境ネットワークの会員で、地球温暖化防止活動を行っているボランティア団体です。

### ■結成時期

平成14年10月1日結成。平成15年11月1日NPO法人ネットワーク「地球村」の地域地球村（わかやま「地球村」）として認証。平成18年1月1日「紀州村」に改名

### ■団体の構成

代表：坂下 睦子、副代表：松井 大明、  
事務局：鳴神 貴友、会員数14名

### ■現在までの主な活動

#### ① 環境講演会

◇平成15年5月～地球 環境講演会開催（市民会館）  
570名参加。講師：NPO法人ネットワーク地球村代表：  
高木善之氏、テーマ「美しい地球を子供たちに」



◇平成19年5月～地球環境講演会開催（河西コミュニティーセンター）150名参加。講師：京都環境市民代表 杵本 育生氏、テーマ：「止めよう地球温暖化」



◇平成16年から市内自治会、地球温暖化防止 啓発活動（説明会）計 20箇所で開催

◇平成17年～企業にて 地球温暖化防止 啓発活動（説明会）計4回

◇平成20年10月～市内神社で行われた集会で温暖化に関する講演を実施  
計3箇所



#### ② 環境保全

◇平成19年11月～環境にやさしいプール清掃活動開始。和歌山市内小中学校のプールにEM（有用微生物群）を投入することにより、プールの清掃が容易になりヘドロが減少します。また、河川や海の環境が改善されて、生き物の増殖が期待されます。

（学校等へのEM投入実績）

- ・2007年11月：加太中学校・2008年5月：加太中学校
- ・2008年11～12月：加太中学校、野崎小学校、鳴滝小学校、附属小学校
- ・2009年5～6月：加太中学校、野崎小学校、鳴滝小学校、附属小学校、雄湊小学校、岡崎小学校、温山荘プール
- ・2009年10月：附属小学校、雄湊小学校、雑賀崎小学校、東和中学校、温山荘 プール、他6箇所、計11ヶ所



#### ◇平成19年10月～家庭廃油回収活動開始

ゴミとして出される天然の資源を再利用CO2削減に。軽油として再利用する業者さんに販売、その売上金は植樹のために使用する予定。

#### ④月例会

毎月1回会員宅において、月例会を開催しています。

#### 「紀州村」連絡先

〒640-8234 和歌山市西坂ノ上丁2番地  
電話 073-425-1012  
E-mail: nasidn@ybb.ne.jp  
事務局：鳴神 貴友

### クールな地球へ！京都アクション2009

京都議定書のまち・京都から

COP15へとメッセージを送ろう！

いよいよCOP15の開催が迫ってきました。COP15開催中（12/7～18）、世界各国の責任ある取組みを求める市民は、世界中で同時アクションを予定しています。関西では12月12日午後2時、京都市役所前に集まり、アピールイベントを行ったあと、約2時間のパレードをします。わかやま環境ネットワークは、この実行委員会にも参加しており、重栖代表は【COP15ネットワーク関西】の関西代表団長としてコペンハーゲンに参加します。日本政府と世界各国に対するメッセージを書いたプラカードや面白いコスチューム、鳴り物を準備して、12・12は京都へ行きましょう～！！



- 11月28日(土)～29日(日)同志社大学 主催:気候ネットワーク  
市民が進める温暖化防止
- 11月30日(月) 主催:コンシューマーズ京都  
「食」から温暖化を考えるバス見学会
- 12月9日(水)19時～ 臨時総会(和歌山市NPOボランティアサロン)
- 12月10日(木)神戸国際会議場 主催:兵庫県センター  
温暖化防止フォーラム2009
- 12月12日(土)京都市役所 主催:実行委員会  
京都アクション2009
- 12月10～17日 COP15@コペンハーゲン 重栖参加
- 1月23日(土)大阪歴史博物館 主催:COP15関西ネットワーク  
COP15報告集会
- 1月31日 和歌山環境検定、  
2月 一村一品全国大会

### 事務所移転予定

エコライフ促進事業の開始に伴って、現在の事務所が手狭になりますので、12月下旬に下記の新事務所に移転する予定です。電話番号はこれまでと同じです。

新事務所所在地 和歌山市小松原通3丁目2 2

## 新人紹介

和歌山市からの委託で、新事業「エコライフ促進事業」をこの10月からスタートさせました。和歌山市の住民に対して、地球温暖化をはじめ環境問題に関する啓発活動を行う事業で、そのために新たに5人の職員を採用しました。5人は研修を経て、年明けから活動を本格化させます。これから会員の皆さんにいろいろな場面でお目にかかると思います。どうかよろしくお願ひします。

#### こさかようじ 小坂 洋司さん

皆様、はじめまして。この度、エコライフ事業に採用して頂きました小坂洋司と言います。前職では、IT業界という畑でプログラムソフトを育ててきましたが、これからは和歌山の環境という畑で、環境問題の草むしりに励みたいと思います。二年半という短い期間ですが、皆様と共に、環境に貢献できるものを耕していきたいです。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。

#### もりたこういち 森田 耕一さん

会員の皆さま、初めまして。この度新たに事務局職員になりました、森田耕一と申します。以前から会員として活動していましたので、顔見知りの方もいらっしゃると思いますが、よろしくお願ひします。現在、研修中ですが改めてこの星の環境問題の大きさに危機感を持ちました。和歌山の環境問題を一人でも多くの市民と一緒に解決できる様に頑張るつもりです。今後ともよろしくお願ひします。

#### たかはしあつこ 高橋 敦子さん

11月からセンターの仲間入りをしました、高橋です。私たちに繋がる全ての命を思い美しい地球を次の世代、その又次の世代へと残していくことを目指し、みなさんと力を合わせてゆきたいと思っています。

#### まえだよしえ 前田 祥苗さん

新しくわかやま環境ネットワークに入りました。前田と申します。これから、和歌山の環境問題と向き合い、持続可能で緑豊かな未来の子供たちに誇れる和歌山を目指して様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願ひします！

#### うえまつゆうた 植松 裕太さん

11月よりお世話になります。温暖化対策が急務となっている今、地元和歌山より出来る事を皆様と手を携え、行動していければと考えております。地球規模で見た場合、我々の行為は非常に小さなものかもしれませんが、一人一人が活動の波紋を広げて大きな輪になれば素敵だと思います。ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願ひ致します。



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第18号 (2009年11月16日発行)  
発行: NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆  
〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4 電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881  
mail: wenet@vaw.ne.jp http://wenet.info/